

### 3. バーチャル大学の市場参入と質保証 —ホームページによる動向調査より—

大多和 直 樹  
OTAWA Naoki

東京大学大学総合教育研究センター  
Center for Research and Development of Higher Education, The University Of Tokyo

現在、バーチャル大学が取り組む重要な課題は、質の保証である。高等教育の新たな市場を開拓するという事は、既存の高等教育の枠組みからはみ出すことを意味する。インターネット上に仮想的に存在するバーチャル大学では、既存の高等教育とはキャンパスや施設の形態、そして学生の学習経験のあり方も大きく異なる。また、営利目的の企業による盛んな市場参入も、これまでの状況とは較べものにならない。ここでは、バーチャル大学が信用にたるものであるか、高等教育機関としてきちんと機能しうるのであるか、この点が問われているのである。

本稿では、この問いに答えるにあたり、先進的な事例である米国のバーチャル大学を見ていく<sup>1)</sup>。質の保証には、二つの側面がある。一つは、制度的に新しい形態の大学に対する質の保証をどういったメカニズムで保証するのかという制度的・社会的側面である。しかし、この点は以下の点でまだ未整備である。第一に、世界的にみても政府統制型の保証がされている例は全くないし、米国でも伝統的な大学については州政府が何らかの統制をおこなうことが多いが、その対象となっていない。第二に、アクレディテーションにおいて米国の機関認定を受けている例がいくつかある。しかし機関の所在地に関わらず、そのすべてが北中部地域認定協会(North-Central Association)による認定である。また主だった専門別認定協会の認定を受けているものもほとんどない。また通常の認定機関のほかに認定団体を形成したり、自らが評価機関を作る例がある。第三に、認定を受けていると称している場合についても、その内容は明らかでない。北中部地域認定協会の認定基準も、バーチャル大学についての基準は明確ではない。

もう一つは、個別の大学がどのように質の保持をしようとしているのかという個別機関の取り組みの側面である。特に問題は、①バーチャル大学が質に関する情報を消費者/学生に対してどのように公開・提供しているのか、そしてどのようなメカニズムで質の保証を行っているのかということである。この点には二つのレベルがあり、一つは未整備ながらも制度的な質保証メカニズムである②アクレディテーションをどのように利用しているのか、もう一つは③ミクロな学習過程をどのように編成していくのかである。③の点については、バーチャル大学では、テストの公正な実施をいかに行うかという問題がある。とくにこの点について着目する。そうした質保証の上で編成された課程が④学位と結びついているのか、この点もまた特に重要になる。以下、実際に米国のバーチャル大学のホームページにアクセスすることにより、この実態を調べて行く。

## I. 方法と対象

### ホームページ調査

バーチャル大学は、インターネット上の大学であることが多く、また窓口をインターネットに持っている。そこで、Yahoo! (www.yahoo.com) の“Education > Distance Learning > Colleges and Universities”に登録されている約250の登録機関のうち、アクセス可能なアメリカの機関を悉皆調査した。実施時期は、2003年4～5月。

### 対 象

実際には、以下の204機関が対象となった。これを形態別に示したものが表1である。それぞれ戦略と役割に違いがある。

表1 米国バーチャル大学の形態

エクステンション		ベンダ	完結	計
公立	私立			
71	47	11	72	201

\*米国Yahoo!のEducation>Distance Learning>Colleges and Universityに登録されているもののうち米国のバーチャル大学を抽出した。

A. エクステンション型：既存の大学が、インターネット等を通じて一定の授業を提供する。ただしこうした科目は従来の大学公開講座（エクステンション）に相当するもので、基本的には学位に結びつくものではなく、大学本来の教育課程とは区別され、もともとは単位としても算定されない形でスタートした。しかし、最近では、単位を出す方向で組織しなおされてきている。

B. ベンダ型：既存の大学が提供する授業科目の一部をインターネットで配信できる形にし、これをいくつかの大学から集めて、学士あるいは修士などに結びつく教育課程を構成したもの。その修了によって学位を与えることが多い。リスクの軽減とパワーの増強をねらってこうしたコンソーシアムを形成する例が見られる。ウェスタン・ガバナーズ・ユニバーシティなどがある。

C. 完結型：大学がインターネットを通じて行われる教育課程を開発し、それに応じた授業を設置して、修了者には学位を授与する。キャンパスを持たない／非常に小規模のものしか持たない形態である。ビジネススクールを中心に、市場価値の高い学位を修得するコースを設置することで、e-Learning市場へと乗り出してきている。アメリカにおけるジョーンズ・インターナショナル・カレッジ、フェニックス・オンラインなどの営利形態をとる大学が多い。

## Ⅱ. 米国バーチャル大学の質保証への取り組み

### 1. アク্রেディテーションについての情報を公開しない事例が多い

まず①バーチャル大学が質に関する情報を消費者／学生に対してどのように公開・提供しているのかについて見ていく。表2は、各機関がHP上にアクレディテーション情報を掲載しているかを調べたものである。

表2 ホームページ上にアクレディテーション情報があるか

	エクステンション		ペンタ	完結	計
	公立	私立			
なし	43 60.6%	24 51.1%	8 72.7%	29 40.3%	104 51.7%
情報あり	28 39.4%	23 48.9%	3 27.3%	43 59.7%	97 48.3%

\*サイトのトップページ、About Us、アクレディテーション、FAQのリンクにアクレディテーションの情報があるかどうかを調べた。

約半数の大学が、アクレディテーションについての情報を公開していない<sup>2)</sup>。エクステンション型では、母体の大学がオーソライズしていることをもって、他に質の保証の情報を提供しない事例が多かった。しかし、母体の大学のアクレディテーションは、バーチャルコースの学習形態・学習経験についての質の保証に対応しきれていないものである。

完結型では、そのよりどころとしてアクレディテーションを受けていることをアピールする傾向がある。しかし、そのなかで4割の大学はこうした情報に触れていない。

表3 完結型のアクレディテーション

HPにアクレディテーション情報あり	
アクレディテーション	
CHEA認定の協会による認定	18 (16)
それ以外の認定協会による認定	13 (12)
非アクレディテーション	
アクレディテーションを受けていない	10 (8)
認定協会以外の団体の情報	2 (1)
HPにアクレディテーション情報なし	29 (20)
計	72 (67)

\*カッコの数字は学位を提供している機関の数

## 2. 完結型のアクレディテーション

バーチャルな形態しかもたない完結型では、質の保証がいかになされているのかが特に重要になる。いかにアクレディテーションを受けているのかを調べたところ以下のような結果がみられた。

全体の72の大学のうち、CHEA認定のアクレディテーション団体のアクレディテーションを取得しているのは18にとどまった<sup>1)</sup>。しかし、それにも関わらずこうした課程が学位に結びつくケースが目立った。CHEA認定のアクレディテーション団体のアクレディテーションを取得していない／情報を開示していない大学で学位を発行しているものは、51に上る。

このような状況で国際展開が始まっていると見ることができる。

## 3. ビジネススクール

バーチャル大学の一つの焦点は、学位の市場価値の高いビジネススクールである。多くのバーチャル大学がビジネススクールを持っている。特に完結型では、これを「売り」にしているものの、AACSB（ビジネススクールの専門認定団体）のアクレディテーションはバーチャル大学未対応／対応中であり、こうした団体からの専門認定を受けているものではないことに注意が必要である。

また、州立大学等のAACSBから認定を受けているビジネススクールのバーチャルコースにおいても問題が残る。母体の大学についてAACSBのアクレディテーションを受けているが、その基準はバーチャル課程の学習を直接保証するものではないからである。

表4 AACSB会員（MBA学位を出しているところのみ）

	エクステンション		ベンダ	完結	計
	公立	私立			
非会員	12 35.3%	16 72.7%	4 100.0%	35 100.0%	67 70.5%
会員	22 64.7%	6 27.3%			28 29.5%

\* AACSB (The Association to Advance Collegiate Schools of Business)  
CHEA認定のビジネススクールの適格認定団体\*ベンダ型大学については  
構成員の大学の認定ではなく、ベンダ型大学自体として

## 4. ミクロな学習過程～試験

バーチャル大学では、バーチャルであるがゆえに本人が実際に受講しているかどうかを把握することがオンキャンパス大学よりも難しい。これが最も問題になるのが試験である。そこで、バーチャル課程では、試験だけはオンキャンパスで行う場合もみられる。そのなかで、現在定着しつつあるのが「プロクテッド試験」である。プロクターという試験監督を立てて、その人を保証人として試験を実施するものである。プロクターは、一定の資格をもつ人が条件で、家族や友人などは選べない。たとえば、つぎのような条件が見られる。

「1. 本学の教員、2. 地域認定団体に認定された高等教育機関の教員（常勤）やアドミニストレーター、3. 州に認定された初等・中等学校の先生（常勤）や学校司書、4. 図書館学の学位を有する公共図書館の司書。……（ペンシルバニア州立大学）」

このようなプロクターを通じて、試験問題の送付・回収（紙による場合には）、実査の実施を行う。

対象となる大学にメールを出し試験の実施方法について訊ね、プロクテッド試験の実施状況を調査した。結果を表に示す。ここでは、母体の大学を持っているエクステンション型の大学で、多く実施されていることがわかった。完結型の大学では、回収率自体が低かった。

AACSB会員の大学では、こうした試験方法をとることで最低限のテストの質を維持することをめざしていることがわかった。

表5 試験調査の結果

	エクステンション		ペンダ	完結	計
	公立	私立			
回答あり					
有効					
試験監督あり	25 35.2%	10 21.3%		6 8.3%	41 20.4%
試験監督なし	4 5.6%	3 6.4%	3 27.3%	10 13.9%	20 10.0%
無効					
要・情報等提供 *1				3 4.2%	3 1.5%
案内文の返信	3 4.2%			2 2.8%	5 2.5%
質問に答えていない		3 6.4%		2 2.8%	5 2.5%
回答なし					
回答なし	38 53.5%	30 63.8%	7 63.6%	45 62.5%	120 59.7%
メールアドレス無効	1 1.4%	1 2.1%	1 9.1%	4 5.6%	7 3.5%
計	71 100.0%	47 100.0%	11 100.0%	72 100.0%	201 100.0%

※試験調査は、HP調査の対象となった全ての機関にメールを送った

\*1住所、職業、学歴など、こちらの情報と引きかえに回答するというもの

\*2大学が用意した案内文が書かれたメール

表6 AACSB会員と試験監督

	非会員	会員	計
回答あり	4		
有効			
試験監督あり	21 44.7%	19 73.1%	40 54.8%
試験監督なし	16 34.0%	4 15.4%	20 27.4%
無効			
要・情報等提供	3 6.4%		3 4.1%
案内文の返信	3 6.4%	2 7.7%	5 6.8%
質問に答えていない	4 8.5%	1 3.8%	5 6.8%
計	47 100.0%	26 100.0%	73 100.0%

### Ⅲ. 考 察

以上のように、バーチャル大学は多様な形で存在し、それぞれ異なった役割を担い、異なった戦略を用いて市場に参入してきていることが見えてきた。大学のタイプ別にその戦略と質保証の現状について整理すれば以下のようなになる。

#### エクステンション型

母体の大学が既に課程を持っており、そこからオーソライズされたバーチャル課程を提供する事例が多い。オンキャンパスの課程の実績・権威をよりどころにしたものである。とくに州立大学では、遠隔教育のニーズがもともと高く、この形態が多い。そもそも、大学の実体があることが確認されており、しかも、その大学自体は地域認定協会やAACSBなどの専門認定協会からアクレディテーションを取得していることがほとんどである。消費者側からすれば、少なくともその範囲で大学の姿を確認することができる。

しかしながら、バーチャル課程自体はアクレディテーションの対象外であり、バーチャル課程を提供する主体のオンキャンパスの大学および課程がアクレディテーションを受けているというものである。

ただし、このタイプの大学では、バーチャル課程では学位を出さず「サーティフィケート」といった資格にとどめるような措置をとっている大学も多々見られた。このように慎重にバーチャル課程を運営する傾向がある。

バーチャル大学では、どういった学習経験を行うのかは、幾つかのモデルが登場している段階でまだ未確定である。また、バーチャル課程に関する開発・教授・支援の組織についても手探りである。消費者の観点からすれば、このあたりの取り組みについての情報開示が十分とは

言えない。

さらに伝統的なオンキャンパスの課程の学位とバーチャル課程の学位に差があるかという質問に対しては、ほとんど全ての大学が差異はないという答えを得た。しかし、バーチャル課程とオンキャンパス課程の学位が、どのように社会的に評価されるかはまだ定まっていない。

### コンソーシアム型

今回のサーチでは、あまり光を当てられなかったコンソーシアム型であるが、今後増加する傾向にある。大学が集まって組織を作ることによって、少ない投資で大きなパワーを形成することが可能であり、またその分リスクを低減・分散することができる。コンソーシアム型は、ユニベルシタス21の事例のように、国際的に大学が集まったものが登場し、たとえばアメリカの地域認定協会のように地域ごとに管理するというアクレディテーションの枠組みをはるかに超えている。既存の制度的枠組みとどのように折り合いをつけながら、新しい質保証のメカニズムが構成されるのか、これから注目すべきところである。

### 完結型

完結型では、バーチャル大学の機動性を生かし、能力形成を通じてのキャリアアップにつながる学位を発行することを売りにしているところが多い。「Learn more, Earn more (もっと学んで、もっと儲けよう)」などのストレートなスローガンを提示している大学もあるように、バーチャル大学での学習が労働市場で価値を持つという点を軸に高等教育市場に参入してきている。それゆえ、学位を発行することは、このタイプで重要な意味があるが、その一方で質の保証の情報開示について不明確にしている機関も散見された。アクレディテーションについても、CHEA認定団体以外からのものによるところもこのタイプでとくに多い。

現時点では既存のアクレディテーションのシステムがバーチャル大学に十分に対応したものではないという事情がある。このように制度的な質保証メカニズムの欠如した状況のなかで、学位の市場価値をよりどころにして独自に行動を起こしているのが完結型である。しかし、消費者から見た場合、きちんとした大学なのかバーチャル大学を語る詐欺のようなものなのかをなかなか掴みづらいということになっており、こうしたところが実はバーチャル大学の発展を妨げている可能性もある。実際には、バーチャル大学の学習過程・形態にかんするモデルの確定と制度的なメカニズムの確立が、市場化の先端を行くバーチャル大学にも重要な意味を持っているのではなからうか。

今回の調査では、米国のバーチャル大学が質にかんする情報はをどのように提供していくのかは、ほとんど個別の大学に任せられていることがわかった。その結果、不透明な形で市場に参入してきている大学があることが少なからずあることが明らかとなった。E-Learningは、既存の制度的な枠組みに収まりきれない新しい市場を開拓する可能生がある。しかし、その一方で、制度的な質の保証のシステムが未整備であり、学生＝消費者がその大学の学習・卒業資格の価値についてわからないことが少なくない。E-Learningは制度的枠組みに制約されないがゆえに新しい市場の可能性を生む一方で、このように制度的下支えがない状況があることに

より、消費者が教育に投資を行うだけの根拠に乏しく、市場の発展が抑制されてしまうということになりかねない。独自の市場参入・開拓には限界があり、制度レベルで質の保証を行うシステムが要請されているのではなかろうか。

- 1) 本稿は、日本高等教育学会第6回大会（於 神戸大学）での学会発表、大多和直樹2003「バーチャル大学の質的保証は可能か」をベースに加筆・発展させたものである。
- 2) 適格認定（アクレディテーションAccreditation）型の質保証では、大学が一定の自主的組織を形成し、その組織の形成員となるために一定の質的な基準を設け、それを満たすものに「認定」を与えるというものである。この場合、認定は機関としての大学全体に与えられるもの（機関認定）と、特定の専門分野での教育に与えられるもの（専門認定）の二つがある。とくに米国では、アクレディテーション団体の適格認定を行うCHEAという団体が組織されている。CHEAに認証された団体に所属する大学には連邦奨学金の受給資格が与えられるなど、CHEAに認証された場合は、連邦レベルでの質の保証がなされたとみることができる。